

**HONDA**

2015年度 第2 四半期

2015年7月1日▶2015年9月30日

# 株主通信





代表取締役社長

八郷隆弘

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

私は社長就任にあたり、2つのテーマを掲げました。1つは、グローバルな6極体制の進化であり、もう1つは、Hondaらしいチャレンジングな商品を開発し、全世界のお客様にお届けすることです。

まず6極体制ですが、Hondaは世界を6地域に分け、各地域が自立した事業運営を行う体制をとっています。この体制のもと、各地域の生産能力は充実し、販売、開発、調達の機能も整ってきました。

次のステップは、地域主体で調えた能力をグローバルにとらえ、製品を相互補完する機能を強化することです。そのためには、6極を束ねる本社の能力を充実させなくてはなりません。生産能力と販売台数との間に生じる差を地域に止めず、Hondaの持つフレキシ

ブルな生産方式を活かし、地域間で補完し合える体制を築く必要があります。

次に商品ですが、私が考える「Hondaらしいチャレンジングな商品」とは、これまでにない技術を備えた、お客様に喜びや感動を提供できる商品です。

今回のモーターショーでご紹介した、新しい燃料電池車、新型のNSXやCIVIC TYPE R(シビックタイプール)、公道走行が可能な二輪GPマシンRC213V-Sといった商品はどれも、私の想いを形にした商品です。

私はこれからも、こうした「Hondaらしいチャレンジングな商品」を開発し、お届けすることに、こだわっていくつもりです。

株主の皆様におかれましては、今後とも、変わらぬ、ご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2015年11月

## 連結業績ハイライト

(2015年4月1日～2015年9月30日)

売上収益

**7兆3,260**億円

前年同期比 15.6%増

営業利益

**4,041**億円

前年同期比 7.9%増

税引前利益

**4,932**億円

前年同期比 13.6%増

親会社の所有者に帰属する四半期利益

**3,137**億円

前年同期比 14.0%増

## 目次

株主の皆様へ……………01

特集……………03

ホンダ太陽 ホンダR&D太陽  
希望の里ホンダ

新製品&Topics……………11

2015年度 第2四半期 連結業績ハイライト…13

事業の種類別セグメントの状況…15

所在地別セグメントの状況……………19

業績の推移(5ヶ年)……………20

要約四半期連結財務諸表の概要…21

会社概要……………25

株式の状況……………26



## ■ 特集：ホンダ太陽 ホンダR&D太陽 希望の里ホンダ

# 意欲を発揮できるチャンスをつくり、もの創りの喜びを。

Hondaは創業以来、既成概念にとらわれずに主体性を持って行動することを従業員に求めると同時に、等しくチャンス場を設けてきました。この哲学は現在も「Hondaフィロソフィー」として受け継がれています。多様な人材が高い品質にこだわり、お客様に喜んでいただける製品やサービスを提供している特例子会社の3社をご紹介します。



本田技研工業株式会社  
取締役常務執行役員 吉田正弘

### 自立した個人が積極的に仕事をすることで 創る喜びを感じ、お客様へ喜びを届ける。

Hondaが創業時から掲げている企業哲学である「Hondaフィロソフィー」の基本理念のひとつに、「人間尊重」があります。これは「既成概念にとらわれず自由に発想し、平等な関係に立ち、信頼し、持てる力を尽くすことで、ともに喜びを分かち合いたい」という理念です。

特例子会社：『障害者の雇用の促進等に関する法律』に基づいて認定される会社であり、障がいを持つ人たちの雇用拡大を目的としている。

この考えにのっとり、創業以来、Hondaでは主体性を持って行動する従業員には、平等に挑戦の機会が与えられています。そうして従業員が創る喜びを感じながら仕事をする中で、Hondaのもの創りを通じてお客様の元へ喜びをお届けしてまいりました。

Hondaの特例子会社に、多様な人材が集い、ともに働き、ともに喜びを分かち合っていくことを目指して設立されたホンダ太陽とホンダR&D太陽、希望の里ホンダの3社があります。

ホンダ太陽と希望の里ホンダは、主にHondaの二輪・四輪・汎用製品の部品の製造をしており、ホンダR&D太陽は、研究開発機関の一部門として、解析業務や研究開発の一翼を担っています。この3社もまた、「Hondaフィロソフィー」のもとに高品質のもの創りを行っています。

### Hondaフィロソフィーのもと、設立された3社。

Hondaが特例子会社を設立するきっかけとなったのは、本田宗一郎がソニーの創業者である井深大氏の紹介で、社会福祉法人「太陽の家」の創設者である整形外科医の中村裕博士と出会ったことでした。



ホンダ太陽を訪問し、従業員に話しかける宗一郎と中村博士(右から2番目)

「No Charity, but a Chance!」という理念のもとに、太陽の家でいきいきと働いている従業員の姿を目のあたりにして本田宗一郎は、「Hondaもこういった仕事をしなければダメなんだ!」と、1981年、大分県別府市にホンダ太陽を設立しました。

1985年には、熊本県松橋町(現 宇城市)に希望の里ホンダを設立。当時の労働省が推進した重度障がい者雇用企業として、民間企業の活力とノウハウを活かし、熊本県そして松橋町(現 宇城市)との共同出資によるものでした。それまで重度障がい者雇用モデルのなかった自動車産業の関連業種とすることで、重度の障がいがある方の職種拡大を目指しました。

続く1992年に設立した、本田技術研究所の特例子会社のホンダR&D太陽は、ホンダ太陽とともに現在は大分県速見郡日出町に拠点を構えています。

## 環境を整えることで、挑戦の機会を。

3社の設備は、フラットで広い通路や引き戸、車いすの方にも使いやすい高さに調整されている作業台やコンセント、スイッチなど、誰もが使いやすいよう隅々まで考慮されています。もし生産ラインの工程内で不便があれば、作業をサポートする治具を独自に開発し、導入。多様な従業員の一人ひとりが働きやすい環境を整えていきます。

これらは特別なことではなく、根幹にあるのはHondaのすべての事業所が持つ、「従業員が主体的に仕事に取り組むことで、高品質なもの創りを行う」という考えです。

一人ひとりがより意識を高く持ち、自分たちの工程をいかに改善すれば作業効率と品質が向上するか考えて、改善箇所があれば従業員がアイデアを出し合い、より高品質なものをつくる。こうして生まれたノウハウには、他の事業所等と共有されるケースもあります。





そのほかにも、食堂・休憩所・お手洗いなどの設備面はもちろん、社宅や通勤機関などについても知見を共有しており、「どうやって障がいの有無を超え、働きやすい環境を整えるか」を共有化しながら展開しています。

また、Hondaの福祉車両の開発では、研究所の一部門でもあるホンダR&D太陽の従業員に意見を聞いています。車いすを利用している方の中にもさまざまな障がいの方がいますので、実際に福祉車両を使用する立場から、試作車に対して改善点やアイデアをフィードバックすることで、乗車しやすく、操作しやすいクルマづくりに貢献しています。

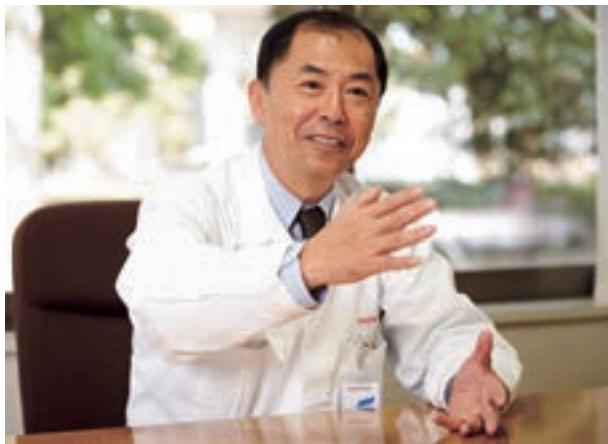
### 会社として、自立と成長を目指す。

3社は、もの創り会社としての基本である「品質」

「効率」「納期」という3つの競争力を高めることに尽力しており、高い評価も獲得しております。部品製造領域を着実に成長し続けることはもちろんですが、ホンダ太陽ではレーザー加工による記念品の製造やデータ処理、そして希望の里ホンダでは印刷や品質検具の検査など、新たな分野にも挑戦を始めました。

新しい事業に挑戦するためには、専門的な知識や技術を新たに学ぶなど多くの苦労がありますが、今後とも会社としての挑戦を続けていくことを期待しております。

Hondaは、お客様や社会の期待に応える製品・サービスの提供をはじめとする企業活動を通じて、「存在を期待される企業」を目指し、今後もチャレンジを続け、お客様に喜びをお届けしてまいりたいと思います。



ホンダ太陽株式会社 ホンダR&D太陽株式会社  
代表取締役社長 星野博司

## 一人ひとりが活躍し、高品質なものの創りと自己実現を達成するフィールドでありたい。

人は人生で、「家庭を持ちたい」「やりがいのある仕事をしたい」など、さまざまな夢や希望があるはずです。ホンダ太陽とホンダR&D太陽は、従業員の一人ひとりのそういった想いを実現する場でありたいと考えています。多様な従業員同士がお互いを認め合い、切磋琢磨しながらともに働くことで、Hondaに、そしてHondaのもの創りを通じて社会に貢献することが目標です。

与えられた業務をただこなすのではなく、自分の仕事に主体性を持って取り組むことで、効率向上のための改善点や不便なことに自然と気が付きます。Hondaでは、そういった改善すべき点を見つけたら、積極的に原因や解決策を提案する「改善提案」という取り組みを行っています。その提案を元に従業員が

話し合い、試行錯誤を繰り返しながら、仕事と品質をよりよく改善していきます。

ホンダ太陽でも全社的に改善提案に取り組んでおり、必要であれば治具の開発も行います。そうして開発された治具は、特定の従業員だけではなく、ホンダ太陽とホンダR&D太陽のすべての従業員が使用しやすいものです。言い換えれば、誰もが使用しやすく、品質や作業スピードの向上に役立つ



片手でも作業ができる、チューブマーキング治具。ペンとチューブをセットしてチューブを回転させると、一度で3箇所にもマーキングできる。

ということ。そうした実績の積み重ねから関係会社の海外工場などに提供したものもあります。

## 挑戦を応援する。

ホンダ太陽では、従業員が積極的に挑戦できる環境をスポーツの分野においても整えています。実業団として車いすマラソンと水泳のアスリートが活動しており、現在は計4人の選手が活躍中です。シドニーパラリンピック、アテネパラリンピックと2大会連続出場を果たしている水泳選手や、リオデジャネイロパラリンピックの代表候補に選ばれている車いすレース短距離選手をはじめ、世界でもトップクラスの成績を収めています。

また、九州地区を中心に、障がいのある児童に車いすスポーツなどを通じて人とのふれあいやからだを動かす楽しさを伝える活動も定期的に行っております。

ホンダR&D太陽が車いすレーサーの開発を始めたのは、社内の選手の「自分たちがつくったレーサーで優勝したい」という想いがきっかけでした。朝霞研究所から協力を得ながら、ゼロから開発し、つくり上げました。いまや、ホンダR&D太陽がつくるフルカーボン製の車いすレーサーは海外のアスリートからも注目を集めるまでになりました。

ホンダ太陽とホンダR&D太陽は、Hondaのもの創りを通じて一人ひとりが創る喜びを感じられるとともに、スポーツへの挑戦を通じて、従業員が一人ひとり自己実現できることを目指していきたいと思います。



ホンダ太陽株式会社 製造部 部長 原田浩二

## Hondaの仕事ということが 誇りとなり、高い品質へとつながる。

ホンダ太陽では、国内で販売されているHondaの二輪・四輪・汎用製品に組み込まれる部品を製造しています。生活の中で、自分たちがつくっている部品が組み込まれている製品を見る機会があることは、働く

クリップをセットし、チューブを差し込むことでクリップが組み付けられる治具。指先への負担が減り、作業の効率も向上した。

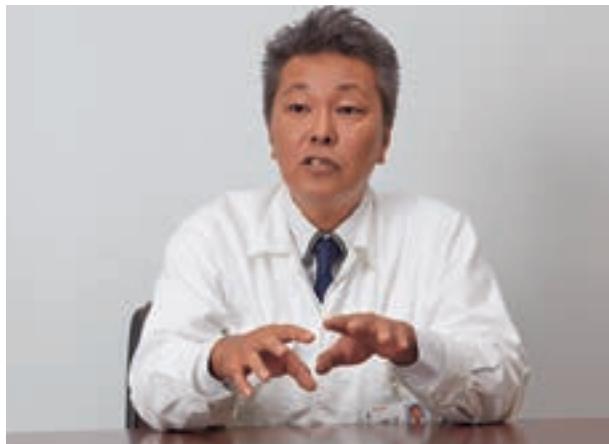


ことへの大きなモチベーションになるとともに、「あのクルマやバイクに使われている部品をつくる仕事をしている」と人に伝えられることで、誇りの醸成にもつながります。

そういった前向きな想いをもち、従業員が仕事への高い意識を保つために重要なのが、誰でも働きやすい環境をつくることです。従業員一人ひとりが積極的に作業効率や品質の向上について考えると同時に、ともに働く周囲の従業員に対して気を配ることで、結果、工場全体の品質や効率が向上していくと考えます。

また、ホンダ太陽とホンダR&D太陽では、多様な従業員がスムーズに業務ができるよう、役職者は「障害者職業生活相談員」という資格を取得しています。業務内容を熟知し、障がいの特性を踏まえ、従業員への仕事の指導や作業環境の整備、職場環境の調整などを行っています。

ホンダ太陽は、従業員一人ひとりが正面から仕事に向き合い、お互いに切磋琢磨しながら、改善提案や、そこから考えたミス防止策や効率向上策を講じることで、もの創りの基本である高い品質を徹底して追求しています。今後とも、Hondaのもの創りを行う工場として、従業員が意欲を發揮し、安心して働ける環境を継続していきたいと思います。



希望の里ホンダ株式会社  
代表取締役社長 中村一孝

### 分け隔てなく働くことで 一人ひとりの自立を目指す。

重度障がい者の雇用を拡大し、職業的に自立することで社会的にも自立できる環境を整えることを目的に、熊本県と松橋町(現 宇城市)との第三セクター方式で、希望の里ホンダは設立されました。

Hondaの「人間尊重」の理念のもと、重度の障がいがある方も積極的に働くことで、高品質なもの創りを行うことはもちろん、企業としても自立していくことを企業運営の基本に考えており、その意識を行政とも共有しています。

従業員の約半数は、重度の身体障がいがある方です。しかし、工場環境を整えることで、多様な従業員全員が分け隔てなく働いています。

例えば、ピストンリングの組み立て工程は、作業台

の奥に手が届きにくい車いすの従業員には難しい作業です。そこで、必要なパーツをセッティングすれば自動でピストンリングをはめ込むことができる独自の開発した自動組み付け機を導入いたしました。



パーツ設置場所が手前にせり出す、ピストンリング組み立て機械。特許も取得している。

### 社外に取り組みを発信し、より多くの雇用に。

Hondaでは、「社活」と呼ばれるCSR活動を行っています。希望の里ホンダでは、支援学校を訪問し、段ボールクラフトでのASIMOづくりを実施。訪問している支援学校の学生さんには、「自分も就労して、社会的に自立をしたい」という気持ちがあっても、「自分が社会で働いていけるのか」「職場で自立して仕事ができるのか」と、不安を持っている方も多くいらっしゃいます。

そのような思いを持つ方に実際に工場作業をしていただく、仕事体験の受け入れも行っています。みなさん、工場に働いている従業員の姿に触発され、「自分も同じように働きたい」と決心して1週間ほどの体験を終えていきます。

そうした活動を通じて、徐々に知名度が向上しており、年々、採用応募も増えています。今後とも、Hondaの一員としての責任と、3つの喜びのひとつ「創る喜び」を全従業員が感じることで、高い品質のもの創りを続けていきたいと思っております。

## 現場で働く従業員から



「自分のつくった部品が  
組み込まれている車種が  
走行しているのを  
見つけると  
うれしくなります。」

ホンダ太陽 坂元幸雄



「自分がつくった  
データから  
できあがった部品を  
手に取ると、  
達成感があります。」

ホンダR&D太陽 南波史恵



「仕事と車いすマラソン。  
達成したい目標が  
どちらにもあるので  
日々が楽しく  
充実しています。」

希望の里ホンダ 岩下啓三

四輪車で使用される電気配線の組み立て工程と検査を担当しています。全社を挙げて、積極的に改善提案をする風土があり、私の提案で改善された工程もあります。車いすマラソンを行っています。社内はスポーツ活動に大変理解があり、大分市内の大会では、従業員や地域の方が応援に駆けつけてくださいます。今後も、仕事と車いすマラソンの双方を通じて、自分を成長させていきたいと思っています。

衝突解析のデータを制作する仕事を行っています。学生時代からCADを勉強しており、活かせる仕事を希望していました。フラットな通路や、配慮された作業台の高さなど、社内は車いすでも働きやすい環境です。

今後は、要求以上のもの創りを行い、研究に貢献していくとともに、自分が働くことで、障がいがあっても働きたい方に、この職種が選択肢にあることを伝えていきたいと思っています。

担当している工程は、四輪のシンクロハブ焼結検査です。拡大鏡を使用して、部品の傷やクラックなどがないか1日2,000個ほど調べています。「絶対見逃さない」という気持ちで取り組んでいますので、分かりにくい不具合を見つげると、自分の仕事に責任を感じます。

車いすマラソンの大会にも、月1回以上出場しています。一緒に働く仲間が、自分の名前を呼んで声援を送ってくると、大変励みになります。

## ■ 新製品 & Topics

7月21日 「Honda歩行アシスト」を発表



歩行訓練機器「Honda歩行アシスト」の法人様向けリース販売を、11月から開始しました。二足歩行理論である倒立振りモデルに基づく効率的な歩行を誘導する機能を有し、歩行訓練にお使いいただけるこの機器によって、より多くの人に移動する喜びを提案していきます。

※本機器は装着者の歩行訓練の補助を目的とした機器であり、装着者の疾病の判断、治療、予防などを目的とした医療機器ではありません

7月

10

21

7月10日 ナイジェリアで四輪車の生産を開始

市場拡大が期待されるアフリカ西部のナイジェリアにおいて、アフリカ初となるHondaの四輪車生産工場が



稼働。「Accord (アコード)」の生産を開始しました。同国には2013年に現地法人を設立し輸入・販売を行ってきましたが、「需要のあるところで生産する」という考えのもと、より地域に根ざした事業展開を目指します。今後のアフリカでの事業拡大にもつなげていく方針です。

7月22日 新型軽量ポンプ「WXシリーズ」を発売



庭園の散水、田畑の灌漑(かんがい)や池の給水・排水作業などに役立つエンジン式軽量ポンプ「WX10T」と「WX15T」。ポンプ性能をさらに進化させ、燃費性能やメンテナンス性も向上。吐出口の向きが変更可能で、設置方向やホースの取り回しの自由度も高めています。

22

30 8月

7月30日 新型「ステップ ワゴン」  
「ステップワゴンスパード」に車いす仕様車を追加し発売



車いす仕様車Gには、2列目乗車、3列目乗車、2&3列目乗車の3タイプを設定し、全タイプにFFと4WDを用意。幅広いバリエーションを揃え、福祉車両ラインアップをより充実させました。全国のオレンジディーラーマスター店を中心に、展示・試乗車を順次配備していきます。

## 8月9日 HondaがFIMロードレース世界選手権シリーズで通算700勝を達成



「2015FIMロードレース世界選手権シリーズ第10戦インディアナポリスグランプリ」のMotoGPクラスにおいて、Honda RC213Vを駆るマルク・マルケス選手が優勝。この勝利によってHondaは、1961年の初勝利以来、前人未達の通算700勝\*を達成しました。

\*勝利数はFIM出典をベースとしたHonda調べ

9

9月

## 9月11日 新型原付スクーター「Giorno(ジオルノ)」を熊本製作所で生産開始 ～海外生産から日本生産へ移管～



「Giorno(ジオルノ)」の生産を中国から熊本製作所に移管。ラインオフ式典を行いました。グローバルで適切な生産アロケーションの見直しにより、現在ベトナムで生産し、日本で販売している50cc原付スクーター「Dunk(ダунк)」と「TACT(タクト)」も、順次生産を移管する予定です。

11

## 10月29日～11月8日

### The Power of Dreams — 想いを超えろ。— 「第44回東京モーターショー 2015」に出展

人々の生活に役立つ革新的なモビリティからレーシングマシンを頂点に走りを目指すモビリティまで、独自の発想と革新の技術によるHondaらしさにあふれたモビリティを展示。出展各社の中で、単一ブランドとしては最大面積となるブースに、新型の燃料電池自動車や新型「NSX」、スポーツハイブリッド三輪「NEOWING(ネオウィング)」、日本初公開となる新型「CIVIC TYPE R(シビック タイプ R)」、そして、Hondaの原点ともいえるスーパーカブの次世代モデル「EV-Cub Concept」「Super Cub Concept」など、コンセプトモデルを含む多彩な四輪車・二輪車などを出展しました。



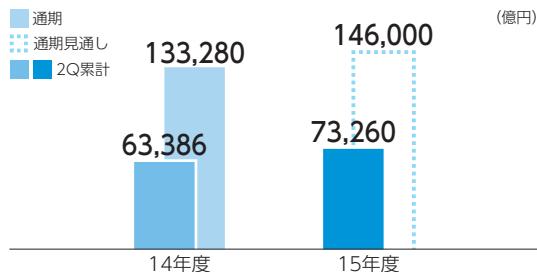
# 2015年度 第2四半期 連結業績ハイライト

(2015年4月1日～2015年9月30日)

## 売上収益

全ての事業の売上収益の増加や為替換算による売上収益の増加影響など

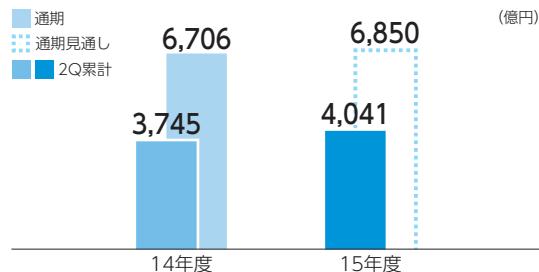
7兆3,260 億円 前年同期比 15.6%増 ↑



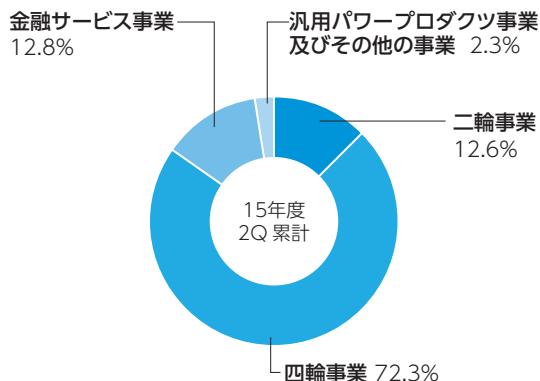
## 営業利益

売上変動及び構成差に伴う利益増やコストダウン効果など

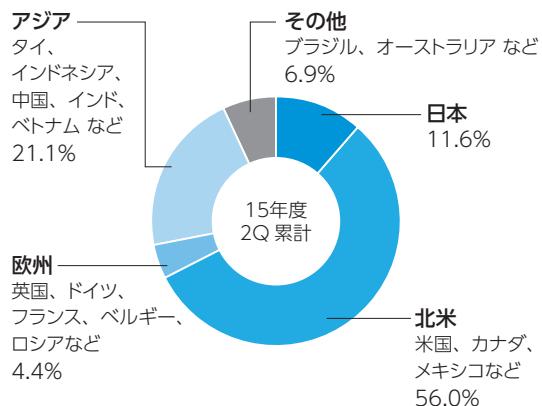
4,041 億円 前年同期比 7.9%増 ↑



## 事業別売上収益構成



## 仕向地別(外部顧客の所在地別)売上構成



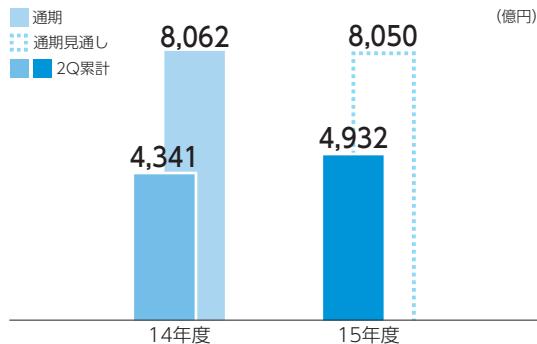
※ 当第2四半期の平均為替レートは1 USドル=122円(前年同期 103円)です。

※ 業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。

※ 見通しの為替レートは、通期平均で1米ドル=118円を前提としています。

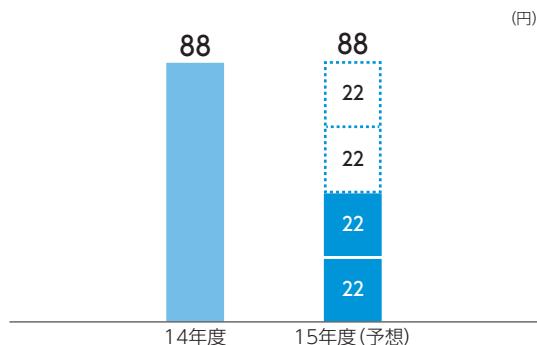
## 税引前利益

4,932 億円 前年同期比 13.6%増 ↗



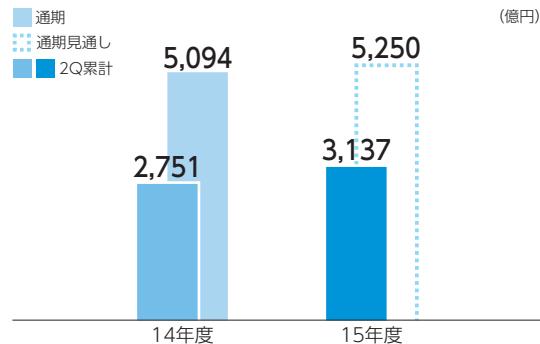
## 配当金

22 円



## 親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

3,137 億円 前年同期比 14.0%増 ↗



### 四半期包括利益

14年度2Q累計  
5,442億円

15年度2Q累計  
1,239億円

### 当社IRサイトで第2四半期決算説明会の資料を掲載しています

機関投資家向けに2015年11月4日に開催した、第2四半期決算説明会の説明会資料、参考資料などを掲載しております。本冊子と合わせてご参照ください。

Honda投資家情報サイト

「IR資料室」

「決算説明会資料」



<http://www.honda.co.jp/investors/library/presentation/>

# 事業の種類別セグメントの状況

## 二輪事業



### 売上収益

9,259億円

前年同期比 7.8%増 ↑

### 営業利益

1,046億円

前年同期比 22.0%増 ↑

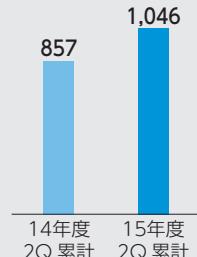
### 売上収益

(億円)



### 営業利益

(億円)



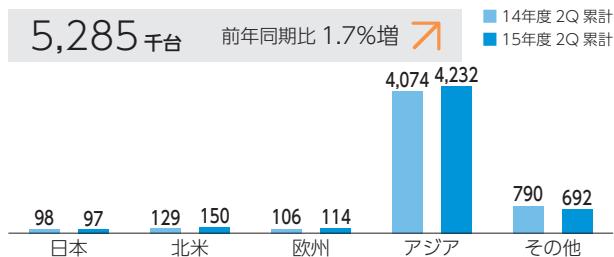
二輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の増加や為替換算による売上収益の増加影響などにより、9,259億円と前年同期に比べ7.8%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加や為替影響などはあったものの、コストダウン効果や台数変動及び構成差に伴う利益増などにより、1,046億円と前年同期に比べ22.0%の増益となりました。

### 連結売上台数

(千台)

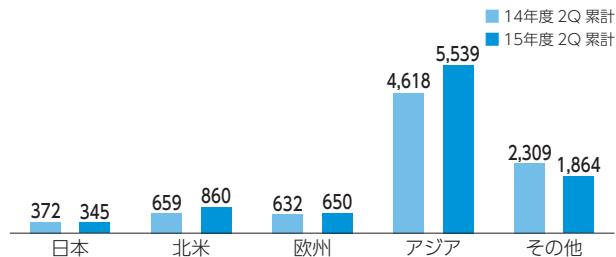
5,285千台

前年同期比 1.7%増 ↑



### 仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益

(億円)

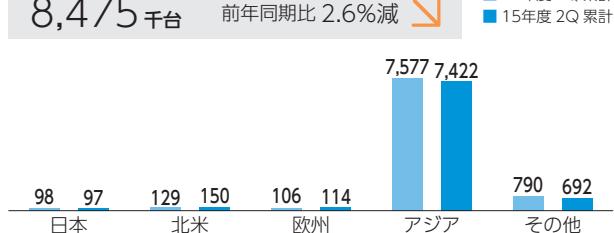


### Honda グループ販売台数

(千台)

8,475千台

前年同期比 2.6%減 ↓



※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車販売台数です。連結売上台数は、当社および連結子会社の完成車販売台数です。

## 四輪事業



### 売上収益

5兆2,975億円

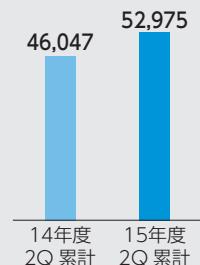
前年同期比 15.0%増 ↑

### 営業利益

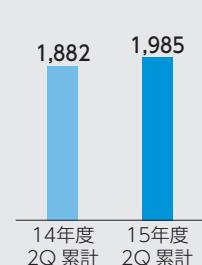
1,985億円

前年同期比 5.5%増 ↑

### 売上収益



### 営業利益



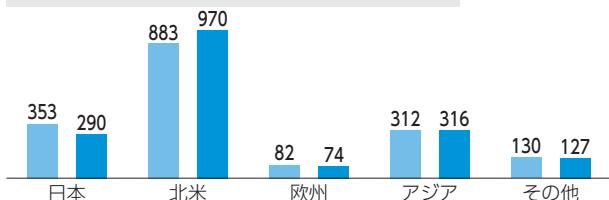
四輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の増加や為替換算による売上収益の増加影響などにより、5兆2,975億円と前年同期にくらべ15.0%の増収となりました。営業利益は、品質関連費用を含む販売費及び一般管理費の増加などはあったものの、台数変動及び構成差に伴う利益増やコストダウン効果などにより、1,985億円と前年同期にくらべ5.5%の増益となりました。

### 連結売上台数

(千台)

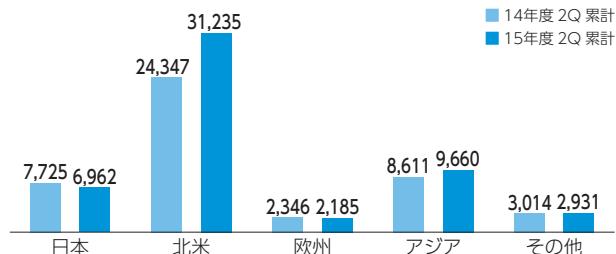
1,777千台

前年同期比 1.0%増 ↑



### 仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益

(億円)

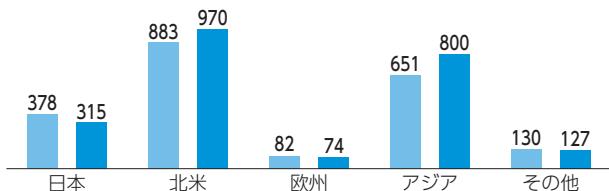


### Honda グループ販売台数

(千台)

2,286千台

前年同期比 7.6%増 ↑



※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車販売台数です。連結売上台数は、当社および連結子会社の完成車販売台数です。

# 事業の種類別セグメントの状況

## 汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業



### 売上収益

1,668億円

前年同期比 10.3%増 ↑

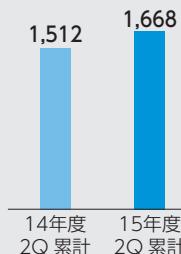
### 営業利益

△33億円

前年同期比 56億円減 ↓

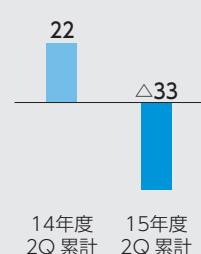
### 売上収益

(億円)



### 営業利益

(億円)



汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業の外部顧客への売上収益は、その他の事業の売上収益の増加や為替換算による売上収益の増加影響などにより、1,668億円と前年同期に比べ10.3%の増収となりました。営業損失は、その他の事業に関する費用の増加や為替影響などにより、33億円と前年同期に比べ56億円の減益となりました。

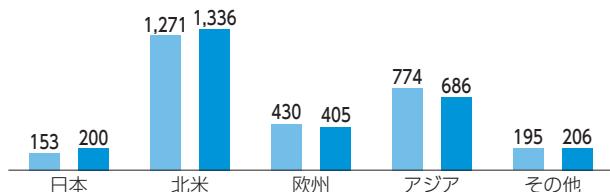
## 連結売上台数

(千台)

2,833千台

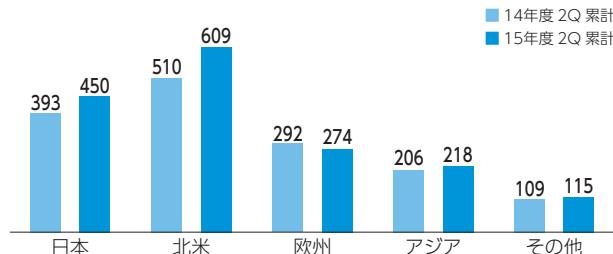
前年同期比 0.4%増 ↑

■ 14年度 2Q 累計  
■ 15年度 2Q 累計



## 仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益

(億円)



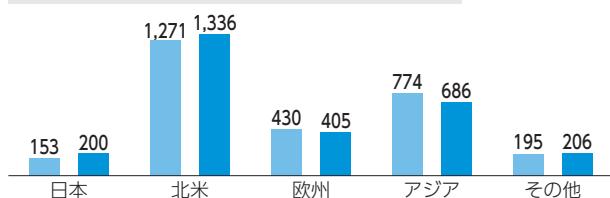
## Honda グループ販売台数

(千台)

2,833千台

前年同期比 0.4%増 ↑

■ 14年度 2Q 累計  
■ 15年度 2Q 累計



※ Hondaグループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の汎用パワープロダクツ販売台数です。連結売上台数は、当社および連結子会社の汎用パワープロダクツ販売台数です。

## 金融サービス事業



### 売上収益

**9,356**億円

前年同期比 29.3%増 ↗

### 営業利益

**1,043**億円

前年同期比 6.2%増 ↗

### 売上収益

(億円)

7,234

14年度  
2Q 累計

9,356

15年度  
2Q 累計

### 営業利益

(億円)

982

14年度  
2Q 累計

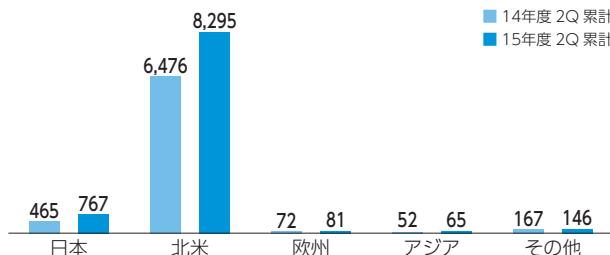
1,043

15年度  
2Q 累計

金融サービス事業の外部顧客への売上収益は、オペレーティング・リース売上、リース車両売却売上の増加、為替換算による売上収益の増加影響などにより、9,356億円と前年同期にくらべ29.3%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加などはあったものの、為替影響などにより、1,043億円と前年同期にくらべ6.2%の増益となりました。

### 仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益

(億円)



### 詳細な財務情報等につきましてはIRサイトをご参照ください

インターネット上にIRに関するウェブサイトを開設し、最新の決算情報やアニュアルレポートをはじめとするさまざまな情報をご案内しています。

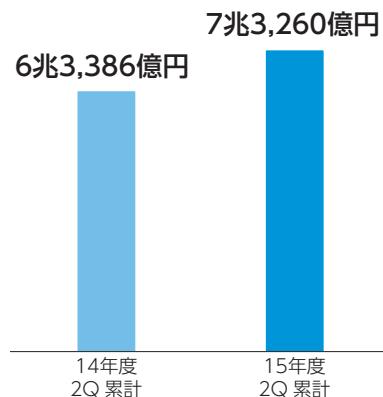
- 決算報告書
- FORM 20-F
- 電子公告
- 決算説明会資料
- FORM SD / Conflict Minerals Report
- 証券取引所提出資料
- 有価証券報告書／四半期報告書等
- 株主通信・事業報告書
- 生産・販売・輸出 月次データ
- アニュアルレポート
- IRロードショー資料
- etc.

[日本語] <http://www.honda.co.jp/investors/>

[英語] <http://world.honda.com/investors/>

## ■ 所在地別セグメントの状況

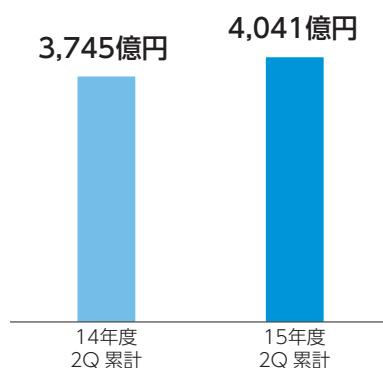
### 売上収益



所在地	15年度 2Q累計 売上収益	前年同期比
日本	1兆8,985億円	2.7%減 ↓
北米	4兆2,877億円	26.5%増 ↑
欧州	3,597億円	3.5%減 ↓
アジア	1兆7,803億円	15.7%増 ↑
その他	4,511億円	5.5%減 ↓

※ 所在地別の売上収益は、外部顧客および他セグメントへの売上収益を含めて表示しています。

### 営業利益



所在地	15年度 2Q累計 営業利益	前年同期比
日本	539億円	718億円減 ↓
北米	1,464億円	372億円増 ↑
欧州	21億円	61億円増 ↑
アジア	1,815億円	514億円増 ↑
その他	117億円	104億円減 ↓

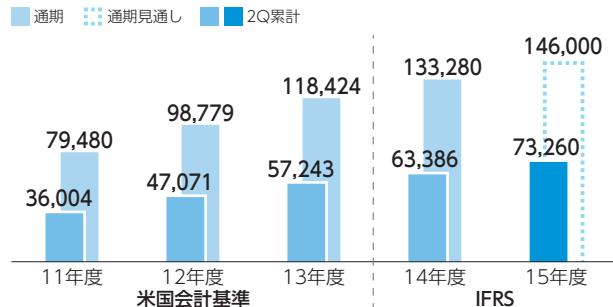
北米：米国、カナダ、メキシコ など    欧州：英国、ドイツ、フランス、ベルギー、ロシア など    アジア：タイ、インドネシア、中国、インド、ベトナム など  
 その他：ブラジル、オーストラリア など

## 業績の推移(5ヶ年)

### 売上収益

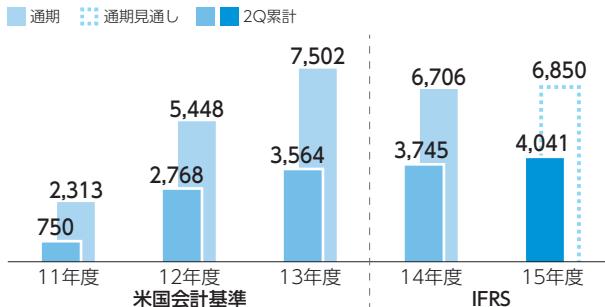
(億円)

※ 11年度～13年度は、米国会計基準に基づいた「売上高及びその他の営業収入」を記載しております。



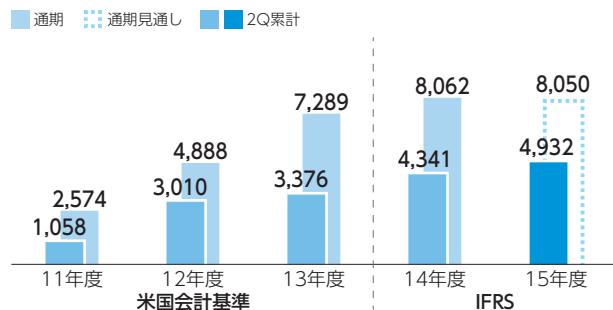
### 営業利益

(億円)



### 税引前利益

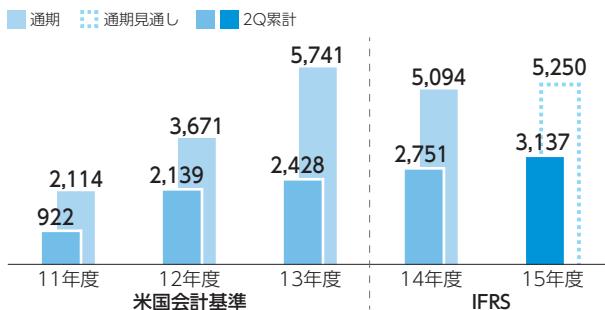
(億円)



### 親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

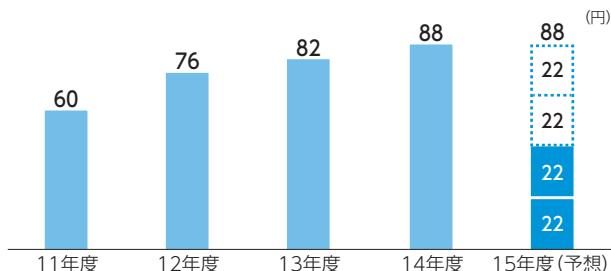
(億円)

※ 11年度～13年度は、米国会計基準に基づいた「当社株主に帰属する四半期(当期)純利益」を記載しております。



### 配当金の推移

当社は、2015年11月4日開催の取締役会において、2015年9月30日を基準日とした当第2四半期末配当金を、1株当たり22円とすることを決議いたしました。また、年間配当金の予想につきましては、1株当たり88円としています。



# 要約四半期連結財務諸表の概要

## 要約四半期連結財政状態計算書

(単位：百万円)

科目	前連結会計 年度末 2015年3月31日	当第2四半期 連結会計期間末 2015年9月30日
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び現金同等物	1,471,730	1,643,627
営業債権	820,681	724,242
金融サービスに係る債権	2,098,951	1,990,240
その他の金融資産	92,708	61,299
棚卸資産	1,498,312	1,371,274
その他の流動資産	313,758	271,287
<b>流動資産合計</b>	<b>6,296,140</b>	<b>6,061,969</b>
<b>非流動資産</b>		
持分法で会計処理されて いる投資	614,975	668,247
金融サービスに係る債権	3,584,654	3,428,550
その他の金融資産	350,579	338,593
オペレーティング・リース 資産	3,335,367	3,632,015
有形固定資産	3,189,511	3,115,430
無形資産	759,535	796,357
繰延税金資産	138,069	123,064
その他の非流動資産	157,007	158,044
<b>非流動資産合計</b>	<b>12,129,697</b>	<b>12,260,300</b>
<b>資産合計</b>	<b>18,425,837</b>	<b>18,322,269</b>

(単位：百万円)

科目	前連結会計 年度末 2015年3月31日	当第2四半期 連結会計期間末 2015年9月30日
<b>(負債及び資本の部)</b>		
<b>流動負債</b>		
営業債務	1,157,738	992,165
資金調達に係る債務	2,833,563	2,667,772
未払費用	377,372	358,751
その他の金融負債	109,715	100,073
未払法人所得税	53,654	87,826
引当金	294,281	369,569
その他の流動負債	474,731	471,933
<b>流動負債合計</b>	<b>5,301,054</b>	<b>5,048,089</b>
<b>非流動負債</b>		
資金調達に係る債務	3,926,276	4,134,023
その他の金融負債	61,147	51,318
退職給付に係る負債	592,724	598,856
引当金	182,661	160,831
繰延税金負債	744,410	704,611
その他の非流動負債	234,744	230,416
<b>非流動負債合計</b>	<b>5,741,962</b>	<b>5,880,055</b>
<b>負債合計</b>	<b>11,043,016</b>	<b>10,928,144</b>
<b>資本</b>		
資本金	86,067	86,067
資本剰余金	171,118	171,118
自己株式	△26,165	△26,172
利益剰余金	6,083,573	6,317,809
その他の資本の構成要素	794,034	590,589
<b>親会社の所有者に 帰属する持分合計</b>	<b>7,108,627</b>	<b>7,139,411</b>
非支配持分	274,194	254,714
<b>資本合計</b>	<b>7,382,821</b>	<b>7,394,125</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>18,425,837</b>	<b>18,322,269</b>

## 要約四半期連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
	自 2014年 4月 1日 至 2014年 9月30日	自 2015年 4月 1日 至 2015年 9月30日
売上収益	6,338,678	7,326,039
営業費用		
売上原価	△4,942,088	△5,714,351
販売費及び一般管理費	△730,577	△913,555
研究開発費	△291,509	△294,005
営業費用合計	△5,964,174	△6,921,911
営業利益	374,504	404,128
持分法による投資利益	41,362	72,514
金融収益及び金融費用		
受取利息	12,377	14,094
支払利息	△9,558	△9,132
その他(純額)	15,474	11,662
金融収益及び 金融費用合計	18,293	16,624
税引前利益	434,159	493,266
法人所得税費用	△134,946	△147,049
四半期利益	299,213	346,217
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	275,134	313,788
非支配持分	24,079	32,429

## 要約四半期連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
	自 2014年 4月 1日 至 2014年 9月30日	自 2015年 4月 1日 至 2015年 9月30日
四半期利益	299,213	346,217
その他の包括利益(税引後)		
純損益に振り替えられる ことのない項目		
確定給付制度の再測定	△6,591	—
その他の包括利益を 通じて公正価値で 測定する金融資産の 公正価値の純変動	10,953	△12,628
持分法適用会社の その他の包括利益に 対する持分	1,055	△2,193
純損益に振り替えられる 可能性のある項目		
在外営業活動体の 為替換算差額	221,077	△199,042
持分法適用会社の その他の包括利益に 対する持分	18,499	△8,404
その他の包括利益(税引 後)合計	244,993	△222,267
四半期包括利益	544,206	123,950
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	509,884	110,091
非支配持分	34,322	13,859

# 要約四半期連結財務諸表の概要

## 要約四半期連結持分変動計算書

(単位：百万円)

前第2四半期連結累計期間 自 2014年 4月 1日 至 2014年 9月30日	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本 の構成要素	合計		
2014年 4月 1日残高	86,067	171,117	△26,149	5,831,140	273,359	6,335,534	223,394	6,558,928
四半期包括利益								
四半期利益				275,134		275,134	24,079	299,213
その他の包括利益(税引後)					234,750	234,750	10,243	244,993
四半期包括利益合計				275,134	234,750	509,884	34,322	544,206
利益剰余金への振替				△6,522	6,522	—		—
所有者との取引等								
配当金の支払額				△79,300		△79,300	△15,395	△94,695
自己株式の取得			△8			△8		△8
自己株式の処分			1			1		1
資本取引及びその他							△2,924	△2,924
所有者との取引等合計			△7	△79,300		△79,307	△18,319	△97,626
2014年 9月30日残高	86,067	171,117	△26,156	6,020,452	514,631	6,766,111	239,397	7,005,508

(単位：百万円)

当第2四半期連結累計期間 自 2015年 4月 1日 至 2015年 9月30日	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本 の構成要素	合計		
2015年 4月 1日残高	86,067	171,118	△26,165	6,083,573	794,034	7,108,627	274,194	7,382,821
四半期包括利益								
四半期利益				313,788		313,788	32,429	346,217
その他の包括利益(税引後)					△203,697	△203,697	△18,570	△222,267
四半期包括利益合計				313,788	△203,697	110,091	13,859	123,950
利益剰余金への振替				△252	252	—		—
所有者との取引等								
配当金の支払額				△79,300		△79,300	△30,739	△110,039
自己株式の取得			△7			△7		△7
自己株式の処分								
資本取引及びその他							△2,600	△2,600
所有者との取引等合計			△7	△79,300		△79,307	△33,339	△112,646
2015年 9月30日残高	86,067	171,118	△26,172	6,317,809	590,589	7,139,411	254,714	7,394,125

## 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科 目	前第2四半期 連結累計期間	当第2四半期 連結累計期間
	自 2014年 4月 1日 至 2014年 9月30日	自 2015年 4月 1日 至 2015年 9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	351,775	705,514
投資活動による キャッシュ・フロー	△390,715	△428,523
財務活動による キャッシュ・フロー	17,173	△43,370
為替変動による現金及び 現金同等物への影響額	40,723	△61,724
現金及び現金同等物の 純増減額	18,956	171,897
現金及び現金同等物の 期首残高	1,193,584	1,471,730
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,212,540	1,643,627

### ■ 国際会計基準(IFRS)を任意適用しました

当社グループは、資本市場における財務情報の国際的比較可能性の向上ならびに、グループ会社の財務情報の均質化および財務報告の効率向上を目指し、IFRSを任意適用いたしました。

### ■ 表示名の違いについて

米国会計基準	IFRS
売上高及び その他の営業収入	売上収益
非支配持分損益控除前 当期純利益	当期利益
当社株主に帰属する 当期純利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益
純資産	資本

# 会社概要

## 会社概要

社名	本田技研工業株式会社	設立年月日	1948年(昭和23年)9月24日
英文社名	HONDA MOTOR CO., LTD.	資本金	86,067,161,855円(2015年9月30日現在)
本社	東京都港区南青山二丁目1番1号 (〒107-8556)	主な製品	二輪車・四輪車・汎用パワープロダクツ

## 取締役および監査役 (2015年9月30日現在)

代表取締役会長	池 史彦	取締役	畔柳 信雄
代表取締役社長 社長執行役員	八郷 隆弘	取締役	國井 秀子
代表取締役 副社長執行役員	岩村 哲夫 ● リスクマネジメントオフィサー ● コーポレートブランドオフィサー	取締役相談役	伊東 孝紳
取締役 専務執行役員	福尾 幸一 ● (株)本田技術研究所取締役社長 社長執行役員	取締役役員	青山 真二 ● 二輪事業本部長
取締役 専務執行役員	松本 宜之 ● 四輪事業本部長 ● 四輪事業本部品質改善担当	取締役役員	貝原 典也 ● 品質担当 ● カスタマーサービス本部長 ● 四輪事業本部サービス統括部長
取締役 専務執行役員	山根 庸史 ● 生産担当 ● 四輪事業本部四輪生産統括責任者 ● 四輪事業本部生産統括部長 ● 欧州地域生産統括責任者	取締役役員	五十嵐雅行 ● 汎用パワープロダクツ事業本部長
取締役 常務執行役員	吉田 正弘 ● 管理本部長 ● コンプライアンスオフィサー	監査役(常勤)	山下 雅也
取締役 常務執行役員	竹内 弘平 ● 事業管理本部長	監査役(常勤)	遠藤 邦夫
		監査役	樋渡 利秋
		監査役	高浦 英夫
		監査役	田村真由美

(注) ※取締役 畔柳信雄 および 國井秀子 は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

※監査役 樋渡利秋、高浦英夫 および 田村真由美 は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

※当社は、國井秀子、樋渡利秋、高浦英夫 および 田村真由美 を、東京証券取引所の規則に定める独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。

## 株主さまアンケートへのご協力ありがとうございました

本年8月の第1四半期株主通信に同封させていただきましたアンケートには、1万4千名を超える多くの株主さまからご回答をいただき、誠にありがとうございました。いただきました貴重なご意見は、株主様とのより良い関係づくりの参考とさせていただきます。今後も定期的にアンケートを行いたいと考えておりますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

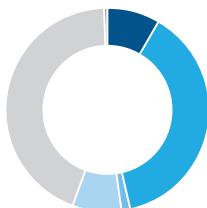
# 株式の状況 (2015年9月30日現在)

## 株式の状況

発行済株式の総数 1,811,428,430 株

株主数 180,861名

### 株式の所有者別分布状況



■ 個人	8.4%
■ 金融機関	38.0%
■ 証券会社	1.4%
■ その他国内法人	8.0%
■ 外国人	43.7%
■ 自己名義	0.5%

### 大株主

氏名または名称	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	108,266	6.0
モックスレイ・アンド・カンパニー・エルエルシー	78,782	4.3
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	74,097	4.1
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー-505223	63,318	3.5
明治安田生命保険相互会社	51,199	2.8
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー	48,450	2.6
東京海上日動火災保険株式会社	42,553	2.3
株式会社三菱東京UFJ銀行	36,686	2.0
ザ バンク オブ ニューヨーク メロン エスエーエヌブイ 10	33,326	1.8
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	29,397	1.6

- (注) 1. 株数は千株未満を切り捨てて表示しております。  
 2. 出資比率は、発行済株式の総数から自己株式(9,143千株)を控除して算出しております。  
 3. モックスレイ・アンド・カンパニー・エルエルシーは、ADR(米国預託証券)の預託機関であるジェーピー モルガン チェース バンクの株式名義人です。

## 株式事務のご案内

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月

基準日  
 定時株主総会 毎年3月31日  
 期末配当 毎年3月31日  
 第1四半期末配当 毎年6月30日  
 第2四半期末配当 毎年9月30日  
 第3四半期末配当 毎年12月31日

上場証券取引所  
 国内：東京証券取引所  
 海外：ニューヨーク証券取引所

単元株式数 100株

株主名簿管理人  
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社  
 (特別口座の口座管理機関)  
 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先  
 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-782-031 (フリーダイヤル)

公告方法 電子公告により行います。

ただし、事故その他、やむを得ない事由により電子公告による公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行います。

[公告掲載 URL]

<http://www.honda.co.jp/investors/>

証券コード 7267

住所変更、配当金のお受け取り方法の  
 指定・変更、単元未満株式の買取・買増

株主様の口座がある証券会社等にお申し出ください。

※特別口座に株式が記録されている場合は、三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払

三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

☎ 0120-782-031

# HONDA

The Power of Dreams

証券コード：7267

株主通信 No.167

## 本田技研工業株式会社

発行 総務部 SRブロック

〒107-8556 東京都港区南青山2-1-1

<http://www.honda.co.jp>

表紙の写真：EV-Cub Concept (第44回東京モーターショー 2015 参考出品車)

UD FONT

